



よみがえる グリーンライン

～丸山流、課題との向き合い方(その4)～



グリーンラインを愛する会
理事長 丸山 孝志

あけましておめでとうございます。新しい年が皆様にとって豊かな実りの年となる事をお祈りいたします。

さて今回は「努力は必ず報われるのか？」について話します。結論から言えば「努力は必ず報われる」訳ではなく、時には無慈悲とも思える天の計らいが有る事も覚悟しておかねばならないと、私は思っています。

私たちは2000年の創立以来、「松枯れと野犬と暴走族と不法投棄のゴミの」と呼ばれた福山グリーンラインを「市民の憩いの場所、福山の観光スポット」としてよみがえらせようと、様々な課題と取り組んできました。会員の皆さんの粘り強い努力、行政・企業・各種団体・マスコミの皆さん、有志の議員、市民の理解や協力などなどを得て、次々と成果を得、目標をクリアしてきました。

「あきらめなければ目標は必ずクリアできるのだ。」と胸を張りたい所ですが、じつは「頑張ったけど、もうこれは(今は)無理だね。」とあきらめた事もいくつもありました。むしろクリアした目標よりも諦めた目標の方が多いかも知れません。

ただ、先ほど私が(今は)とカッコで括ったのは、その時はいったん断念したけれど、その後クリアできた目標もたくさんあったからです。言い訳がましいかも知れませんが「その時はいったん断念したけれど、決してあきらめたわけではなかった。」事もたくさんありました。そうした様々な経験の中で私が得た教訓のひとつが「すべての課題をクリアする事は出来ない。しかし取り組んだ課題から学ぶ事柄には一つの無駄も無い。」という事です。

「課題の解決は農業だ」と私が考えるのは「時を測り、その時その時になすべきことをきちんとやり続ければ、必ず実りの時が来る。」というのは、残念ながら幻想にすぎない事を、様々な体験を通して学んだからです。「人知や人の力で抗えない事が有る」事を、身を以て学びました。

米作りに例えれば「冷たい夏」もあれば「日照りの夏」もある。「あと少しで稲刈り」という時に

嵐に襲われる年もある。努力さえ怠らねば必ず豊かな実りを得る事が出来るわけではないのです。

「こんなに頑張ったのにこの結果だ。もうやめよう。」と思う事は無理からぬことですが、そこであきらめれば次の年はおろか未来永劫実りの秋は来ません。「今年は諦めるが、来年はもう一度。」そういう思いを持ち続ける事が大切なのだ学びました。

また成功体験よりもむしろ挫折体験の方がより多くの、そして深い学びが有る事も教えられました。

真剣に頑張っ、必死にあがいて、最後に負けを認め、同時に「でもこれで終わりにはしない」と心に誓う経験を繰り返すうちに、「自分の仕事は農業と同じなのだ」という事を学び、「最初に土づくり、つまり行動を起こす前の準備が成果に関わる」事を教えられ、「何事も天の時に背けば成功は無い」ことを知り、「人事を尽くしても天命は絶対」であることを思い知らされながら、ひとつまたひとつと新しい目標に向かって立ち向かい続けました。

いま、「自分はこれをやり遂げたいのだ」という目標を見つけたあなた、「目標は見つけたが、何処から手を付ければ良いのか？」と迷うあなた。

大きな壁の前で勇気と目標を見失いかけているあなたに、私の経験と学びが、お役に立つならこれほどうれしい事はありません。

